

## 女子学生の意識についての調査

### 教育環境アセスメントに関する研究第1報告

金平 文二\*・岩井 絹江\*\*

(昭和58年9月30日受理)

## Opinion Survey for Women's College Students

### —Study for Assessment of Educational Environment—

Bunji KANEHIRA and Kinue IWAI

(Received September 30, 1983)

#### はじめに

青少年の健全な育成をはかるうえで、個人的な条件のほかに、その環境が重要な要因となることはいうまでもないが、最近における文化的・社会的・経済的環境の変化に伴い、青少年の意識・態度・行動なども種々の影響を受け、それらは複雑化し、多様化することによって、青少年の理解のしかたや育成のあり方をいっそうむずかしいものとしている。教育環境アセスメント(事前評価)というのは、(われわれが名付けていることであるが)、地域開発や工事着工を行おうとするとき、それらが自然環境の保全にどのような影響を与えるかについて、事前に技術調査を行うことを環境アセスメントといっているが、同じ意味で青少年の健全な発達・育成をはかるうえで環境がどのような影響を及ぼしているかを評価するとともに、教育環境をどのように整備することが必要であるかを研究しようとするものである。

しかしながら、青少年をめぐる環境要因にはさまざまなものがあり、そのうちどれを取り上げるか、多様な要因を個々にどのように検証していくか、きわめてむずかしいが、第1報告として、短期大学生の意識調査を取り上げ、研究に着手することとした。

#### I. 研究アプローチの枠組

人間行動はパーソナリティと環境との積の関数によって規定されるが、青年のパーソナリティを知的側面、性格的側面、身体的側面に大別して、その形成過程をみると図1に示すようになる。パーソナリティの中心層を占

める知能・気質・体質は素質的なものであるから、比較的に変化しにくい、周辺層になるほど環境要因や学習の結果によって変化しやすい。

青年をめぐる外部環境についてみると、現代社会は映像文化の時代、情報化社会といわれるように、マス・メディアのきわめて発達した社会であり、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌・漫画・書物などのマス・メディアの氾濫が青年の意識・態度・行動傾向に種々の影響を及ぼしている。また、青年は学習活動以外に各種クラブ・同好会への参加によって多様な活動をし、さらに核家族化することにより、家庭中心主義の増加や伝統的な慣習の稀薄化などの傾向がみられるようになってきている。

このような環境要因の変化は青年にどのように影響しているか、その一般的傾向について概観してみると、まず、知的側面について、マス・メディアによる情報の提供によって、青年は多面的で豊富な知識を持つことにな

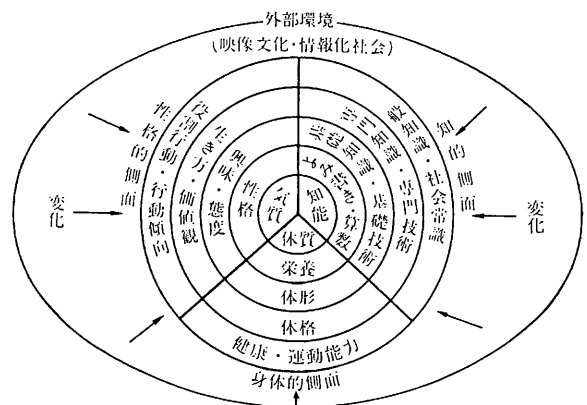


図1 パースナリティ形成と環境要因の変化

\* 児童学科

\*\* 学生部

るが、それらが断片的なものにとどまるという傾向を生み出している。また、人間の思考形式は垂直的に推論していくのが一般であるが、最近の青年は、物事を深く突っ込んで考えるよりは、ある事象から次の事象へと飛躍する、いわば水平的思考の傾向が強くなっている。さらに、テレビやラジオを視聴する場合、自ら判断したり、行動したりすることは少ないから、受け身的になり、何かに積極的に働きかけるという態度や行動が失われやすい。以上のように、環境要因としての映像文化が、青年の知的側面にいろいろな影響を及ぼしているが、特にパーソナリティの形成過程にある青年においてその影響は強いと考えられる。

性格的、態度的側面にはどのような傾向を生じさせやすいであろうか。現代社会は一面では、経済的に物の豊かな社会であるといえる。たしかに、家庭内の生活環境設備・器具は整備されてきており、人間生活に便利な交通手段が拡大し、消費生活を豊かにする衣服・食物は多彩化し、余暇のための各種の施設・器具なども豊富になってきている。このような物質的な豊かさが、青年の生活様式を多様化させ、また個性化の傾向を強める結果になっている。このように、青年が自己の志向する価値観にしたがって、個性的な生き方をすることはきわめて望ましいことである。

しかし、このような傾向は欲求の肥大化を生じさせやすい。特に、自己の欲求を抑制したり統制する力の弱い青年にとってこの傾向は顕著である。欲求や関心の多様化は、一方では、自分の好きなもの、関心のあるものには深く打ち込むがそれ以外のものには一切無関心という傾向を生じさせる。自分中心的な考え方をより増大させ、そのことが孤立化の傾向を生み出し、社会における協調や連帯を低下させる現象を生み出す結果になっている。

身体的側面についてみるならば、形態的には20年前に比べて、青年の身長は約5～6cm伸び、足長型になっているが、体力や運動能力の面では低下してきていることが指摘されている。

以上に、青年のパーソナリティの形成過程に環境要因がどのように影響しているかについて、一般的な傾向について述べたが、青年のパーソナリティの形成や行動傾向を理解するためには、青年や大人の行動環境がどのように変化してきているか、環境がどのように影響しているかについてみてみる必要がある。青年を正しく理解するためには、青年のパーソナリティや行動傾向、意識の

把握にとどまらず、青年のおかれている文化的、社会的、教育的環境要因を分析する必要がある。今後、これらの環境がどのように変化していくかについて長期的な展望を持つと同時に、現代の青年が現在に適應できるだけでなく、将来にわたって適應できるような力を体得させていかなければならない。同時に、環境それ自体を人間の生活にとって望ましいものであるように変容させていくことが必要である。以上の諸点が、われわれが今後継続的研究を行っていかうとするときの研究アプローチのわく組である。

## II. 研究の目的

最近、短期大学における学生の学習意欲や集団活動への参加が低下しつつあることが指摘されているが、現代の短大生が学生生活のなかで、学習活動や人間的成長を支えるものとして、自己の生き方について何を生きがいとし、どの程度の充実感をもっているか、どのような生き方をのぞみ、目標への達成意欲はどの程度かなど、いわば、実現しようとする自己をどのようにとらえているか、まずその実態を把握することによって、それらが何に起因するかを考究する手がかりを得ようとするものである。

## III. 研究の方法

### 1. 調査対象

東京都内に存在する文化女子、目白学園、東京農業、共立女子、東京文化、学習院、跡見学園女子、大妻女子、成城、昭和女子、立教女学院、青山学院女子、東京家政の13の短期大学を選び、各短期大学学生のうち無作為に抽出し、調査対象とした。調査の配布数は1,300名で回答数は1,039名となり回収率は約77.7%である。

### 2. 実施期日

昭和57年7月7日～7月20日の期間に調査票の配布および回収を行った。各短期大学において調査対象者に調査の主旨を説明し、調査票の配布、回収を行った。

### 3. 調査票の設計

調査票の質問項目はKJ法の手法を用いて選定し、内容別に分類整理して選択式の質問項目を設計した。質問分野は次のとおりである。

#### 選択式質問（23問）

- i 大学生活の中での充実感
- ii 日常生活の中での満足感

iii 自己分析による実現したい自己

iv 将来の生きかたと目標への達成意欲

記述式質問（1問）

i あなたにとっての夢

計24問で質問項目を構成した。回答方法はマーク・シート方式とした。

#### 4. 調査結果の集計

集計はマーク・シート回収後、パスキーⅢ集計機によって行い、度数および全体に対する割合を算出して図式化し、それらの結果について分析検討を行った。さらに、問23の達成意欲度についての結果を指数として、調査対象を上位群、下位群に分け、各質問項目に対するクロス集計を行ったが、その結果は図の下欄に表示し、両群間の差の顕著なものについて考察を加えた。

記述式回答については、内容をカテゴリー別に分類し、度数およびパーセントを算出し、特徴の現われているものを表示し、それらを分析し考察を加えた。

#### 5. 調査結果とその考察

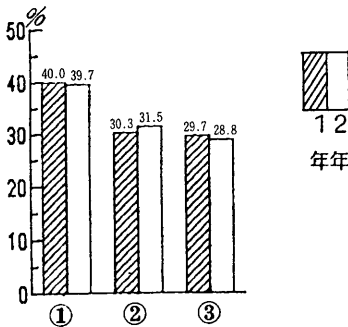


図2 問2 学年別、専攻別 (%)

結果の数表による表示は省略し、学年別および専攻別の度数、パーセンテージを比較棒グラフで表示したが、調査結果の概要は以下のとおりである。

問2 専攻は何ですか。

1. 家政系
2. 人文系（英文、国文、教養等）
3. 教育系（保育含む）

問3 自分の専攻にどの程度満足感を感じていますか。

1. 十分感じている
2. すこし感じている
3. あまり感じていない
4. 不満である
5. 考えたことがない

専攻に対する満足感について、1. 十分感じている、2. すこし感じているが1年では66.6%、2年では71.9%あり満足感はかなり高い。専攻別にみると教育系が特に満足感が高く、入学時の目的意識の高さ、目標の明確さが大きく影響しているように思われる。しかし、満足していない学生も30~35%いるが、これは決して少ない比率とはいえない。いまの自分の専攻に満足させ、充実した学生生活を送らせるにはどうしたらよいか、検討する必要がある。（文中の%表示は合計を示している。以下同様）

表1問3 上位群、下位群別度数 (%)

	①	②	③	④	⑤
上位群	28.6	45.5	15.6	6.5	3.9
下位群	17.1	51.2	16.3	9.8	5.7

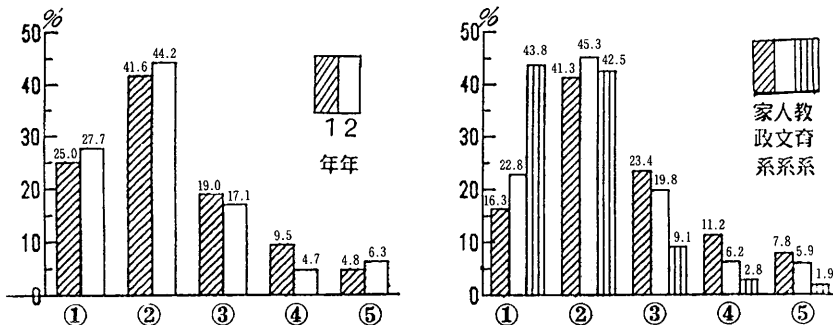


図3 問3 学年別、専攻別 (%)

問4 大学生活の中でいま一番打ち込んでいることは  
何ですか、

1. 大学での授業や宿題
2. 自分の趣味（スポーツ、けいこごと）
3. 大学でのクラブ活動
4. 就職のための準備
5. 自分の好きな学科の学習

表2 上位群，下位群別度数（％）

	①	②	③	④	⑤
上位群	18.2	58.4	16.9	3.9	2.6
下位群	14.6	49.6	23.6	6.5	5.7

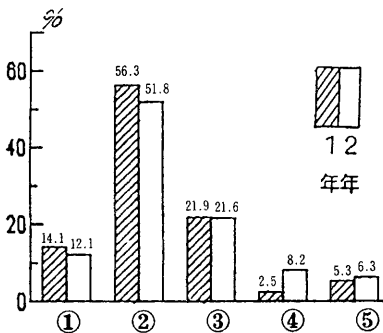
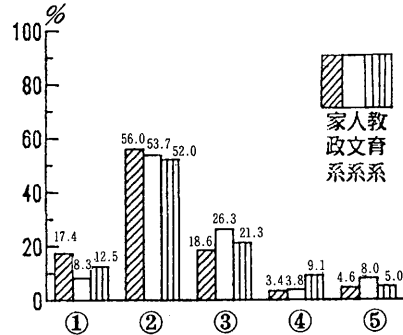


図4 問4 学年別，専攻別（％）



いま打ち込んでいることの中で一番高いのは、2. 自分の趣味で54.1％あるが、大学生として一番打ち込んでもらいたのは、1. 大学での授業や宿題、5. 好きな学科の学習だが18.9％を占めるにすぎず、学年別も専攻別もほぼ同じ傾向である。授業に打ち込めないのは、現在の大学の授業が打ち込むにあたいしないと考えるからなのか、

学生が受身的であるからなのか、また、まわりに授業以上に楽しいものがありすぎるからなのか、大学としては学生をまわりの楽しいものや趣味以上に、大学の授業や好きな学科の学習に打ち込ませるためにはどうしたらよいか、反省をも含めて検討する必要があることを示唆している。

問5 大学生活の中で一番やりがいを感じていることは何ですか、

1. 自分がやりたい研究的なことに打ち込んでいるとき
2. 自分の好きな何かやりたいことに打ち込んでいるとき
3. 自分の趣味・レジャーに打ち込んでいるとき
4. 自分の好きなサークル・同好会をやっているとき

表3 問5 上位群，下位群別度数（％）

	①	②	③	④
上位群	2.6	61.0	24.7	11.7
下位群	2.4	57.7	22.0	17.9

大学の中で一番やりがいを感じているのは、2. 自分の好きなことに打ち込んでいるときで61.5％ある。大学の専攻についての満足感が高いので、大学の授業の中に学生が興味を持ち、好きなものが見つかれば、学生のやりがいを感じることも学習・研究的なものへと変っていくのではないだろうか、そのためには学生が望むことと、期待することをよく理解し、学生の授業への興味を高めていく必要がある。

女子学生の意識についての調査

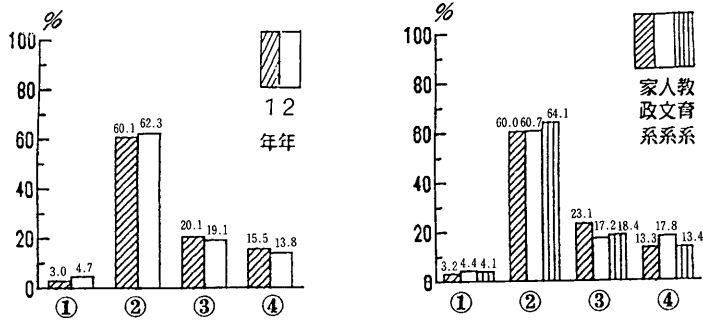


図5 問5 学年別, 専攻別 (%)

問6 大学における学生生活の中での充実感ほどの程度ですか.

1. 満ち足りているという感じを持つことがかなり多い
2. 満ち足りているという感じを持つことが時々ある
3. 満ち足りているという感じを持つことがあまりない
4. 満ち足りているという感じを持つことはまったくない

学生生活の中での充実感については, 充実感を持つ12.5%, 時々感じる48.2%があるが, 充実感を持つことはないという学生が39.2%ある. 大学というのは, 自分で将来のことを考え, 自分の目的にあった生活をするために入学してきているはずなのに, 学生生活に充実感を持っている学生が12.5%しかいないのは少なすぎるように思う. 授業面, 課外活動面などから, 充実した学生生活をすごさせるにはどうしたらよいかを研究する必要がある.

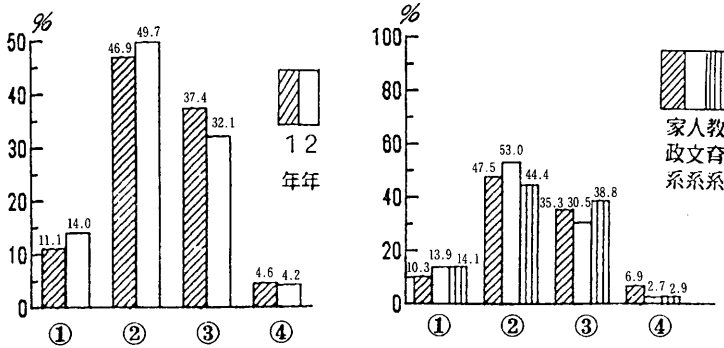


図6 問6 学年別, 専攻別 (%)

表4 問6 上位群, 下位群別度数 (%)

	①	②	③	④
上位群	19.5	46.8	29.9	3.9
下位群	9.8	48.0	39.0	3.3

問7 大学生活の中で学習活動と学習活動以外についての生きがいはどの程度ですか。

1. 学習活動に熱中することが生きがいである
2. どちらかといえば学習活動に生きがいを感じる
3. 生きがいは学習活動も学習活動以外も同じくらいである
4. 学習活動以外に熱中するのが生きがいである

大学生活の中での生きがいについても、これまでと同じ傾向を示し、学習活動に生きがいを感じているのは5～6%しかない。3. 学習活動とそれ以外のものに生きがいを感じているのは57.9%、4. 学習以外のものに生きがいを感じているのが35.9%であり、いまの学生は大学生活の中で学習活動を生きがいの対象とすることは少なく、それ以外のものに熱中していることを示している。

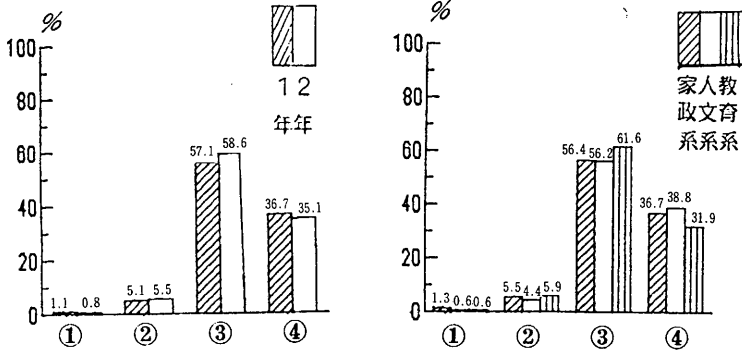


図7 問7 学年別、専攻別 (%)

表5 問7 上位群、下位群別度数 (%)

	①	②	③	④
上位群	3.9	3.9	54.5	37.7
下位群	0	4.9	58.5	36.6

表6 問8 上位群、下位群別度数 (%)

	①	②	③	④	⑤
上位群	20.8	31.2	18.2	27.3	2.6
下位群	15.4	46.3	19.5	18.7	0

問8 学生生活の中で学習と余暇についてどう思いますか。

1. 余暇の中に生きがいを感じる事が多い
2. 学習は適当にし、余暇を楽しむことが多い
3. 学習にも余暇にも同じくらい力を入れている
4. 余暇も楽しむが学習にも力を入れている
5. 学習こそ生きがいである

学生生活の中での学習と余暇については、各学年、各専攻とも、2. 学習は適当にし、余暇を楽しんでいる傾向が多く、5. 学習こそ生きがいであるという学生は0.5%にも満たない。学習も余暇も同じくらい力を入れさせるようにするにはどうしたらよいか工夫する必要がある。

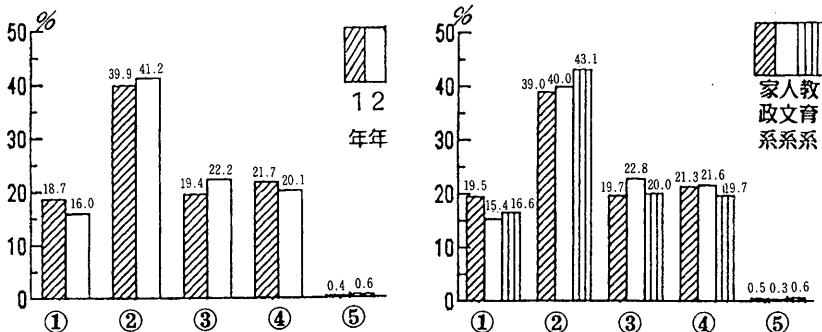


図8 問8 学年別、専攻別 (%)

女子学生の意識についての調査

問9 現在あなたの生きがいの対象になるものは何ですか。

1. その日、その日を愉快地楽しく生きること
2. 生活の目標を立て、着実に生きること
3. 家族やまわりの人びととうちとけて過ごせること
4. 能力を発揮して自分にしかできないものを生み出すこと
5. 人間的により豊かなものを求めて努力すること

生きがいの対象については、豊かな人間性を求めているのが最も多く、1年37.4%で2年になると46.1%とよ

り高くなる。専攻別にみると教育系の学生の48.4%が5.人間的により豊かなものを選んでいいる。しかし、学生にとって人間的に豊かなものが何か、を具体的に把握する必要がある、この点が明確になれば、学生指導のなんらかの指針が得られるかもしれない。

表7 問9 上位群, 下位群別度数 (%)

	①	②	③	④	⑤
上位群	19.5	6.5	11.7	18.2	44.2
下位群	24.4	7.3	13.8	9.8	44.7

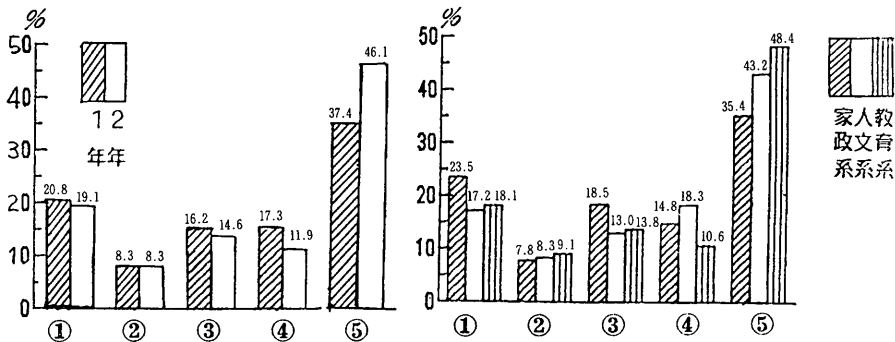


図9 問9 学年別, 専攻別 (%)

問10 大学生活の満足度はどの程度ですか。

1. 満足している
2. やや満足している
3. どちらともいえない
4. やや不満である
5. 不満である

大学生活の満足度については、1. 満足15.7%, 2. やや

満足41.5%であわせて57.2%になる。しかし、4. やや不満、5. 不満をあわせると19.2%を占め、不満の原因は何かをよく考えてみる必要がある。特に上下位群に分けてみると差が顕著で達成感の高いグループは満足の数合いも高くなっている。

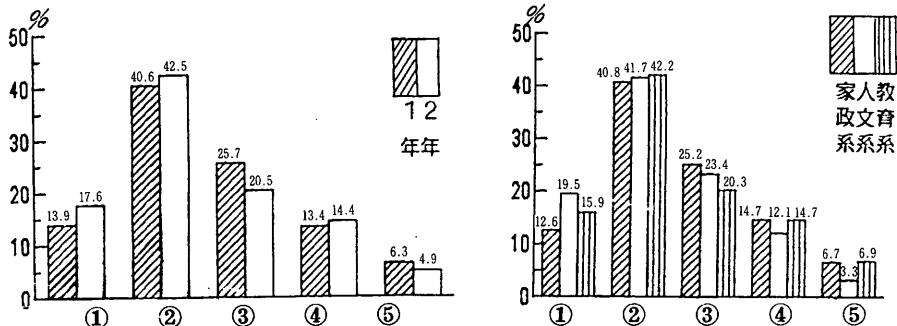


表8 問10 上位群, 下位群別度数 (%)

図10 問10 学年別, 専攻別 (%)

	①	②	③	④	⑤
上位群	24.7	36.4	18.2	19.5	1.3
下位群	10.6	43.1	25.2	14.6	6.5

問11 友人関係の満足度はどの程度ですか。

1. 満足している                      3. どちらともいえない
2. やや満足している              4. やや不満である
5. 不満である

大学生生活の満足度に対して、友人関係の満足度は、1. 満足42.1%、2. やや満足39.5%で81.6%の学生が満足している。しかし、4. やや不満、5. 不満な学生も7.3%ではあるが、友達とうまくいっていないようである。この

ような学生に対する指導のあり方を検討する必要がある。

表9 問11 上位群, 下位群別度数 (%)

	①	②	③	④	⑤
上位群	44.2	44.2	6.5	2.6	2.6
下位群	37.4	43.1	11.4	8.1	0

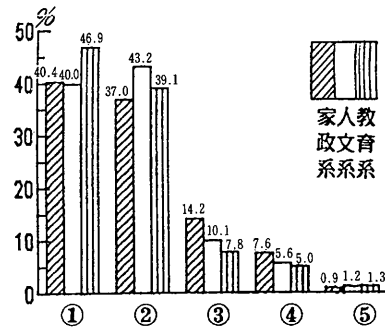
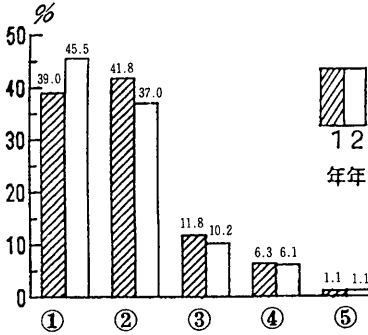


図11 問11 学年別, 専攻別 (%)

問12 家庭生活の満足度はどの程度ですか。

1. 満足している                      4. やや不満である
2. やや満足している              5. 不満である
3. どちらともいえない

家庭生活の満足度については、問10の大学生生活への満足度 (57%) に比べかなりの学生が満足しており、1. 満足、2. やや満足を含ると72.4%あり、恵まれた家庭環境にあると思われる。5. 不満であるが3.2%と最も低く、理想的なカーブをえがいており、大学生生活の満足度についてもこのような形になれば理想的ではないだろうか。

また、上下位群に分けて見るとこの間も差が顕著であり、達成動機の高いグループは家庭でも大学でも満足度が高いことがわかる。

表10 問12 上位群, 下位群別度数 (%)

	①	②	③	④	⑤
上位群	45.5	35.1	6.5	6.5	6.5
下位群	34.1	28.5	21.1	13.8	2.4

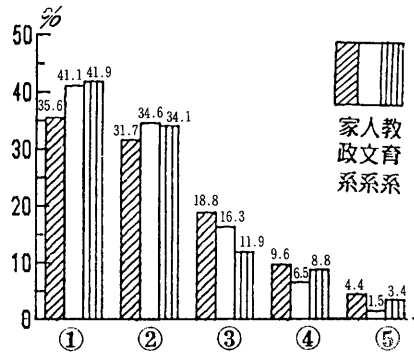
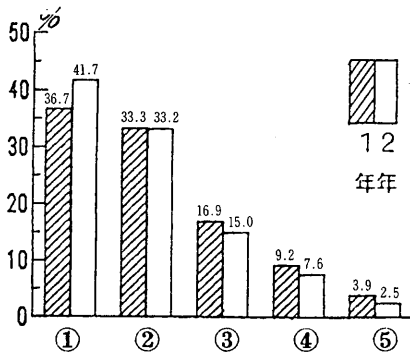


図12 問12 学年別, 専攻別 (%)



女子学生の意識についての調査

問13 自己自身をどの程度分析し、どの程度とらえていますか。

1. 自分というものをはっきりとらえている
2. 自分というものをまあとらえている
3. 自分というものをあまりはっきりとらえていない
4. 自分は何なのかよくわからない

自己自身の分析はかなりの学生が自分というものをとらえているようだが、はっきりわからない学生が25.5%

おり、このような学生の指導こそ必要であると思われる。この問いにおいても上位群・下位群の差が顕著である。

表11 問13 上位群，下位群別度数（％）

	①	②	③	④
上位群	31.2	58.4	5.2	5.2
下位群	8.1	59.3	26.0	6.5

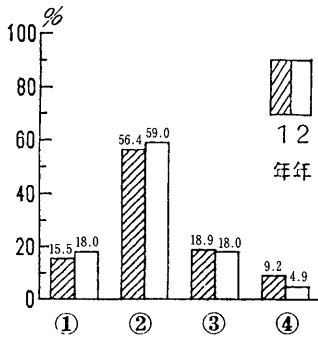
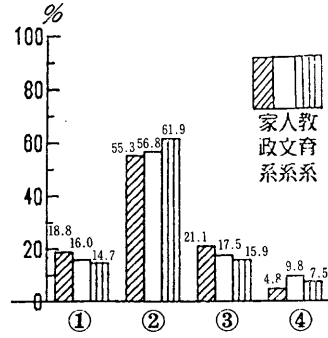


図13 問13 学年別，専攻別（％）



問14 日常生活の中での充実感はどうの程度ですか。

1. 満ち足りた気持を感じるもののほうが多い
2. 満ち足りた気持を感じるものがやや多い
3. 満ち足りた気持とむなしいきもちの同じくらい割合で感じている
4. 満ち足りた気持とむなしい気持をほとんど感じることはない。

日常生活の中で満ち足りた気持を感じる学生は25.9%しかいない。半数以上の学生は十分満ち足りた気持にはなっていないようである。特に上下位群で見ると差が顕著であり、本来ならば青年期の一番充実感を感じる時期であるはずなのに、なぜ充実感が低いのだろうか。このような学生のむなしい気持をどのようにして満ち足りた気持に変えていくかが問題である。学生指導のありかた

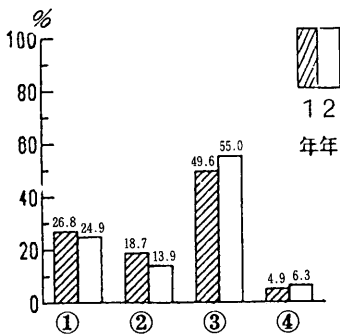


表12 問14 上位群，下位群別度数（％）

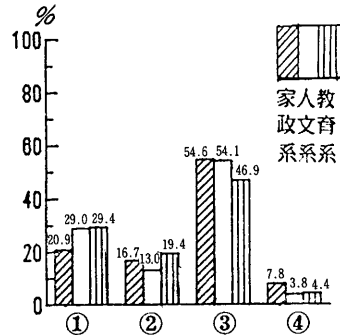


図14 問14 学年別，専攻別（％）

として、どうすればよいか検討する必要がある。

問15 あなたがいま一番重視していることは何ですか。

1. 大学での授業に打ち込み専門を身につけること
2. 大学でのクラブ活動に打ち込んでいくこと
3. 友人関係をととして友情を育てていくこと
4. 世の中のことについて広く知ること
5. 自分のやりたいと思っていることを完成すること
6. 家族関係や家庭生活を大事にしていくこと

いま一番重視していることの第1位が、5. 自分のやりたいことの完成、第2位が、3. 友情を育てることで自己追求的になっている。大学生活の中で本来得られる“学

習”や“クラブ活動”が各々10%以下になっている。これは、学生の関心が大学生活以外で多様化しつつあることを示している。問9～問15までは充実感に関する問いであるが、自己を十分把握しないかぎり“何に打ち込んだらよいのか”わからないのではないだろうか。そのことが充実感を低めているように思われる。

表13 問15 上位群，下位群別度数（％）

	①	②	③	④	⑤	⑥
上位群	11.7	5.2	24.7	18.2	35.1	5.2
下位群	4.1	4.1	35.8	17.9	36.6	1.6

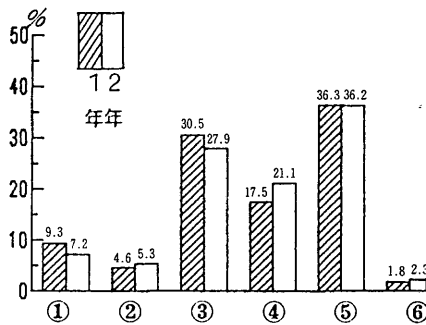
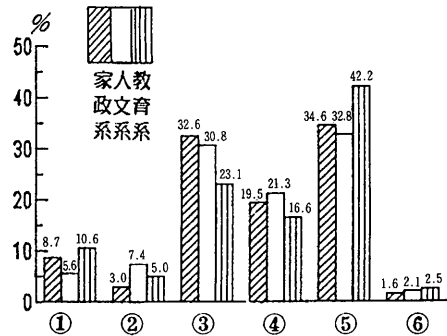


図15 問15 学年別，専攻別（％）



問16 いま，大学生活の中で一番嫌なことは何ですか。

1. 大学での授業がおもしろくないこと
2. 友人関係がうまくいかないこと
3. クラブ活動がうまくいかないこと
4. 将来のはっきりした見通しがたたないこと
5. 自分のやりたいことが自由にできないこと

大学生活の中で一番嫌なことは何かの問いに対して、4. 将来の見通しがたたない 45.3%と最も高く、1年で34.9%だったのが2年で56.5%になる。これは短大2年で就職についての不安が大きく影響しているようである。特に人文系が高くなっている。また、1. 大学での授業がおもしろくないのは1年で27.3%が2年で12.7%に減る。これは2年になって授業が理解できておもしろくなったのか、授業に対してあきらめの気持ちをもってしまったのかを、さらに考察してみる必要がある。

また、“将来の見通しがたたない”ということは、変化する社会、多様化した時代の中であって、展望がもてにくいことは理解できるが、それだけに短大2年間の間に「自分はこれだけ是可以る」、「実現しようとする自己は何なのか」をはっきり自己確認できるような学生指導が必要のように思われる。

表14 問16 上位群，下位群別度数（％）

	①	②	③	④	⑤
上位群	18.2	5.2	1.3	53.2	22.1
下位群	18.7	2.4	5.7	52.8	20.3

女子学生の意識についての調査

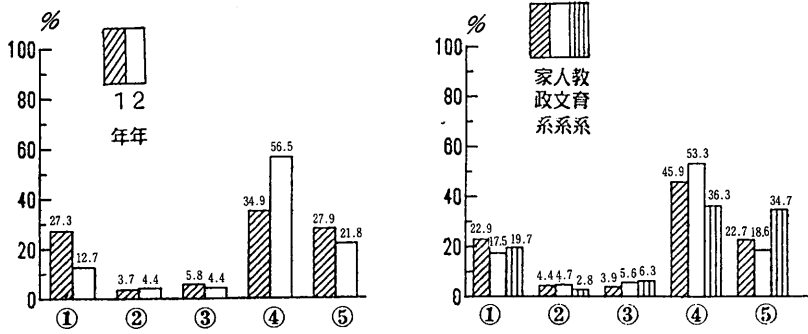


図16 問16 学年別, 専攻別 (%)

問17 いま, 迷い悩んでいるものは何ですか.

1. クラブ活動
2. 勉強
3. 金銭面
4. アルバイト
5. 自分の性格や能力
6. 家庭のこと
7. 政治問題
8. 環境問題
9. 恋愛・結婚
10. 就職
11. 読書
12. 映画・観劇
13. ファッション (流行)
14. セックス (性)
15. 友人のこと
16. 食べ物
17. ダイエット
18. 社会問題

いまの悩みについては, 2年の10.就職が第1位で, 前問でも“先の見通しがたたくて嫌だ”が高い比率を示していたが, 関連して就職についての悩みが多い. 次いで, 5.自分の性格, 2.勉強, 17.ダイエットの順となっている.

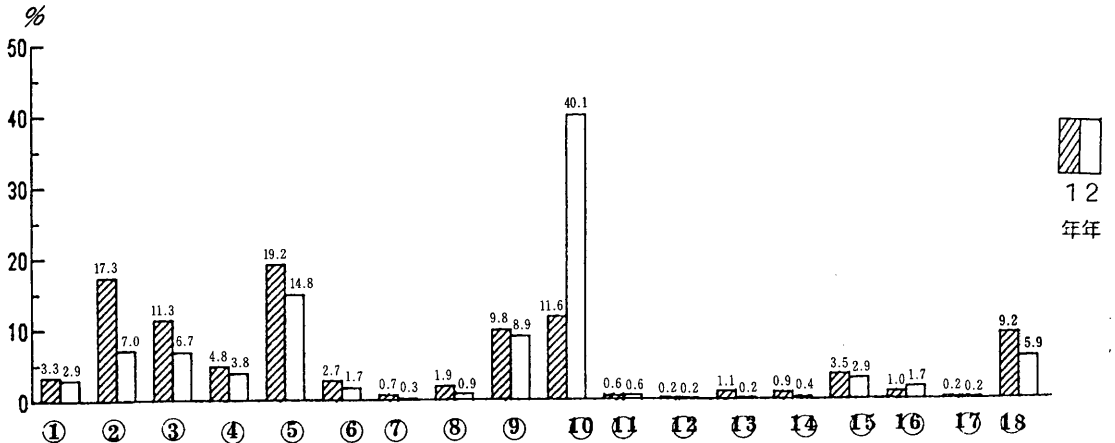


図17 問17 学年別, 専攻別 (%)

表15 問17 上位群, 下位群別度数 (%)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱
上位群	3.4	13.8	8.6	5.2	13.8	6.0	1.7	0.9	11.2	19.8	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	1.7	0.9	7.8
下位群	3.2	10.6	9.7	3.2	16.7	2.3	0.0	0.9	7.9	30.1	0.5	0.5	0.5	0.9	4.2	0.9	0.5	6.9

問18 あなたは迷いや悩みが生じた時どのようにして  
いますか。

1. 友人と話し合う
2. 親や兄弟姉妹など家族に話す
3. 担任の先生と話し合う
4. 担任以外の先生と話し合う
5. 自分だけで解決しようと努力する

6. 専門の機関（カウンセリング室等）に行って相  
談する

7. 時間が解決してくれるのを待つ
8. 気分転換をはかる
9. なりゆきにまかせる
10. その他

悩みが生じた時の対処のしかたについては学年差はあまりみられない。悩みについての相談は、先生・親ではなく、1. 友人と話し合う44.3%と圧倒的に高く、3., 4. など先生と話し合う比率は0.4%と極端に少ない。教師離れのこのような状況を大学としてどう対処するか問題である。

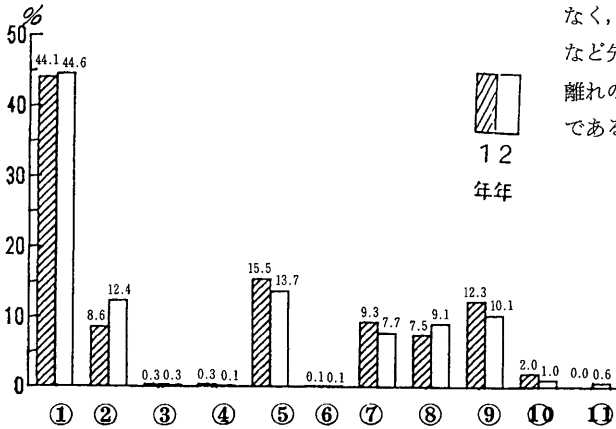


図18 問18 学年別、専攻別 (%)

表16 問18 上位群、下位群別度数 (%)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
上位群	41.3	12.0	1.1	1.1	18.5	0	7.6	8.7	6.5	2.2
下位群	51.7	7.4	0	0	12.1	0	10.1	7.4	10.7	0.7

問19 将来の生き方についてどう思いますか。

1. 大学で学習したことを職業生活の中で生かして  
いきたい
2. 結婚するまでは何らかの仕事につき色々なこと  
を身につけたい
3. 大学を卒業したら結婚し、結婚生活をエンジョ  
イしたい
4. 何年間か仕事についたり、結婚もするができる  
だけ自由に生きたい
5. とくに将来の目標はなく、できるだけのんびり  
過ごしたい

つきいろいろなことを身につけたい、4. 仕事についたり、結婚もするが自由に生きたいが合せて65.4%を占め、結婚への期待が強く、マイホーム主義的な小市民的傾向がみられる。職業意識はやや低く、ここでも上下位群の差は顕著である。

表17 問19 上位群、下位群別度数 (%)

	①	②	③	④	⑤
上位群	33.8	32.5	5.2	26.0	2.6
下位群	21.1	43.1	4.9	24.4	6.5

将来の生き方については、教育系では、1. 大学で学習したことを職業生活の中で生かしていきたいが最も高い比率を示している。全体をみると、2. 結婚までは仕事に

女子学生の意識についての調査

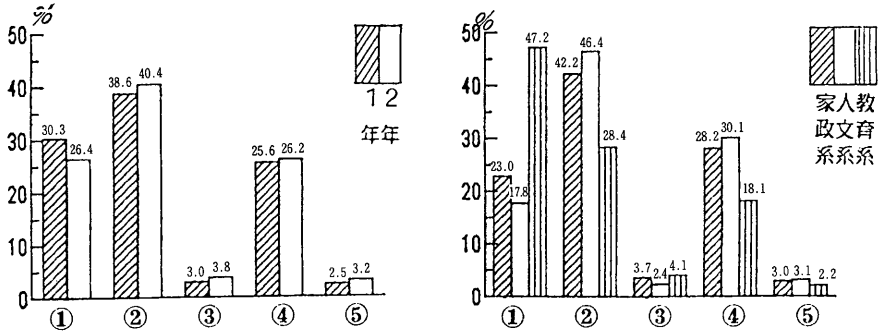


図19 問19 学年別, 専攻別 (%)

問20 自分の目標を何かもち, その達成に努力していますか.

1. 目標に向かって毎日努力している
2. 目標に向かって努力しているほうだと思ふ
3. 目標があまりはっきりせずなんとなく過ごすことが多い
4. 目標がなく毎日張りが無い

目標に向かって毎日努力している学生はわずか5.8%し

がなく, 2. 目標に向かって努力しているほうだを含めると47.8%になり, それなりに努力しているという傾向はみられる. しかし, 3. なんとなく過ごす47.2%, 4. 目標がない4.8%を合すると52.1%になり, 目標を持たずに毎日をすごしている学生が半数を占めることは, 大学としては大きな問題である. 学生に目標をもたせるにはどうしたらよいかが課題であり, 目標設定や目標指向のためのガイダンスがもっと必要のように思われる.

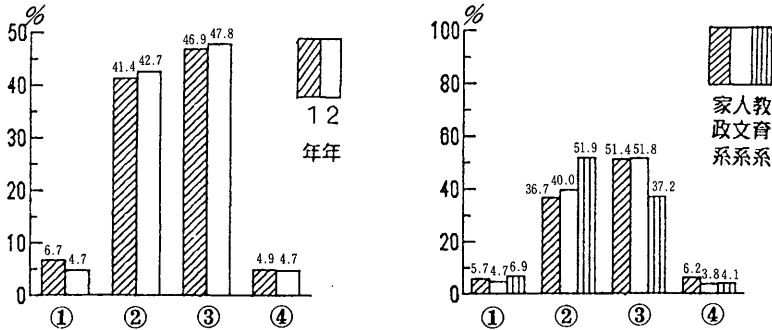


図20 問20 学年別, 専攻別 (%)

表18 問20 上位群, 下位群別度数 (%)

	①	②	③	④
上位群	10.4	49.4	36.4	3.9
下位群	1.6	35.8	56.1	6.5

問21 学生生活や日常生活で充実した生き方をするにはどうすれば良いと思いますか.

1. 両親と相談し, 両親のいうことをよく聞き, 素直な生き方をしていく
2. 教員と相談して, いろいろアドバイスを受け実行していく
3. 親しい友人に何でも打ちかけながら, 相談にの

ってもらい、ヒントを見つけていく

4. いろいろな人と相談もするが、自分で自分の進むべき道を見い出していく

充実した生き方をするにはどうしたらよいかの問に対しては、4. 人に相談もするが自分で自分の道を見つけるが74.4%と圧倒的に高い。充実した生き方を求めているがつかみきれていないようである。4. が多いことは、自主性があるって良いと考えられるのかもしれないが、他人をあてにしないということは良くない傾向ともいえる。人間は生きていくためには人間関係が基本であり、人間

的つながりがその人にとって大きなものとならしたら、このような学生の傾向は望ましくない。人間関係が、スムーズにいくよう大学として何らかの形で指導していくべきではないだろうか。

表19 問21 上位群，下位群別度数（％）

	①	②	③	④
上位群	3.8	0.0	19.2	76.9
下位群	1.6	0.8	22.8	74.8

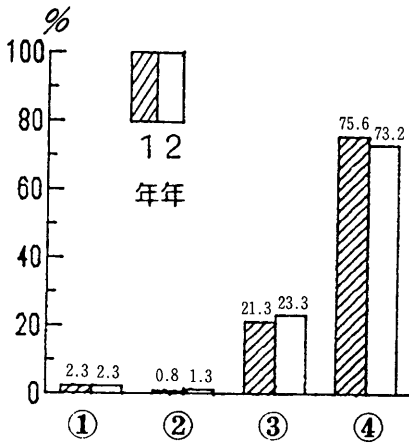
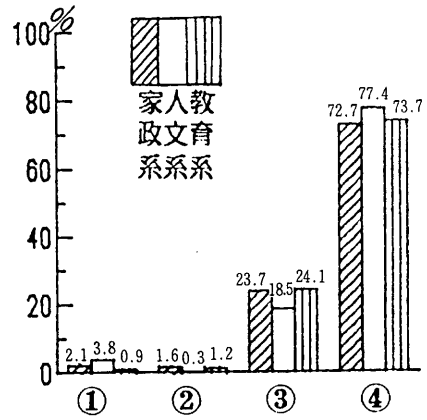


図21 問21 学年別，専攻別（％）



問22 大学生活に対する満足度を5点満点でつけるとすればどのくらいになりますか。

問22は大学生活への満足度についての質問である。全対象者の平均プロフィール（各選択枝に5.4.3.2.1のウェイトをおく）は図22のとおりである。平均的プロフィールは学年間ではほとんど差はみられない。項目別にみると、平均点の高い項目は、6. 学生相互の関係、9. 日常生活、1. 大学生活、となっており、大学生活の中で学生相互の関係についての満足度が最も高くなっている。平均点の低い項目は、5. 教員との関係、3. 講義、カリキュラムとなっており、教員、授業関係についての満足度が低くなっている。大学は専門的知識・技術を習得する場であるが、これに関する事項の満足度が低いということはやはり問題であり、その対策について考慮する必要がある。

問23 次の項目について該当する欄にマークしてください。

問23は達成意欲度についての質問である。個人別の意欲度得点の度数分布は最高点37から10点にわたり、かなり個人差がみられた。達成意欲度についての全対象者の平均プロフィール（選択枝に5.4.3.2.1のウェイトをおく）は図23のとおりである。各項目別にみると、平均プロフィールは学年間ではほとんど差はみられない。項目別にみると、平均点の高い項目は、6. 自分が満足できない結果は納得するまでやるほうだ、1. ひとつのことを始めたら最後までやらないと気がすまない、となっており、自分で取り組んだものへの達成意欲はかなり高くなっている。反面、平均点の低い項目は、5. いつも新しい目標を見つけてそれに挑戦している。9. 自分より勝れた成績の人と競争するのが好きだ、となっており、新しい目標への挑戦、仲間との競争という点では達成意欲は低くなっている。

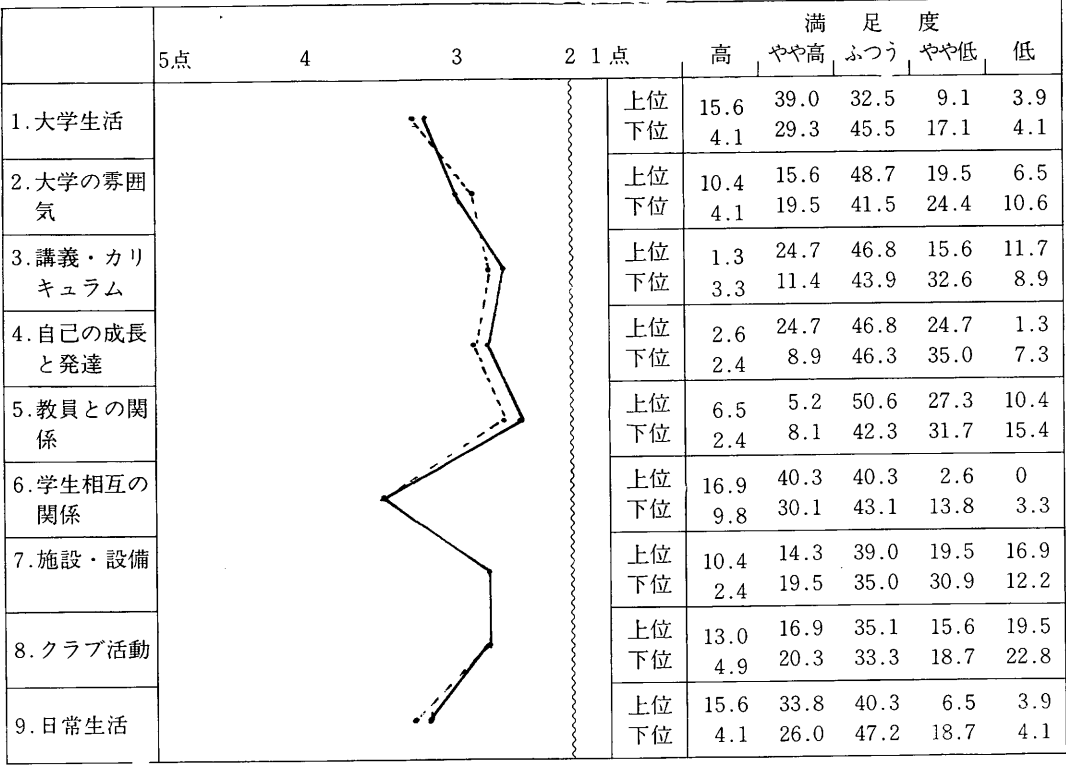


図22 問22 満足度平均プロフィール 上位群、下位群別度数%

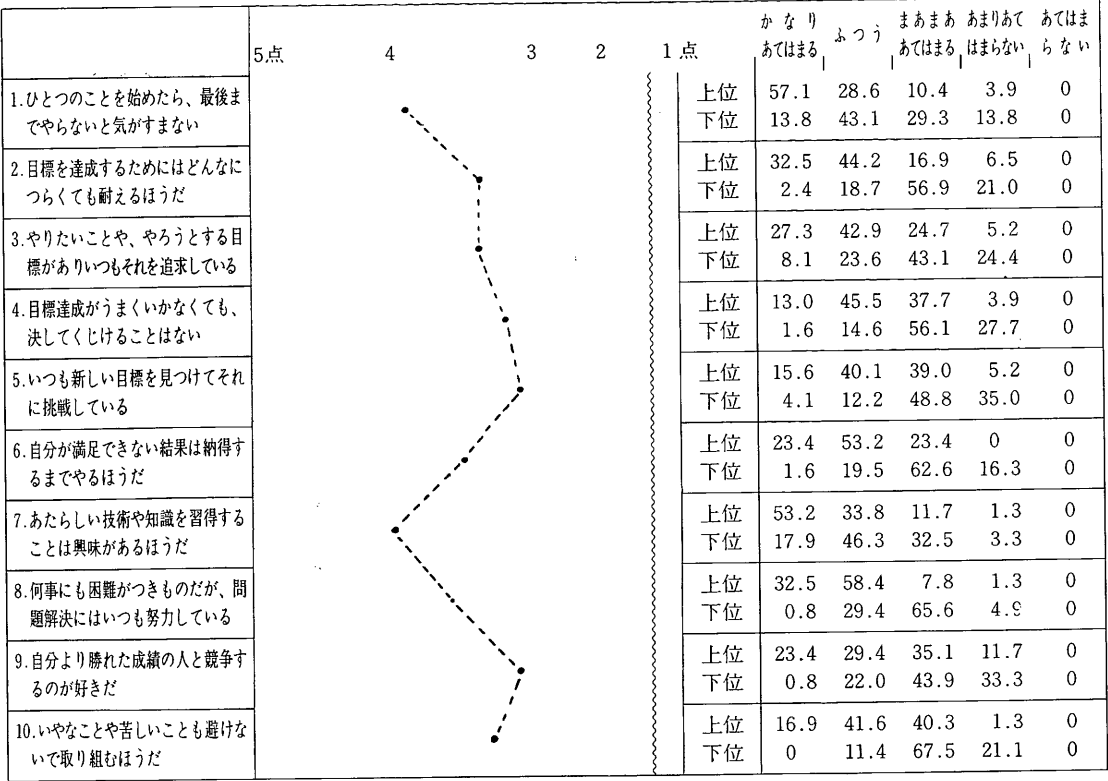


図23 問23 達成意欲度平均プロフィール 上位群、下位群別度数%

問24 あなたにとって現在の夢は何ですか。自由に書いてください。

この問は、将来についての具体的な問いではなく、莫然とした「夢」という投影法による問い方で自由記述をさせ、短大生の内面を探ろうとしたものである。結果の集計の方法は、記述(1,050枚)を切り離し、KJ法的手法により学年別、専攻別に分類・集計した。分類の結果、自然に9のカテゴリー、すなわち、就職、結婚、自己の成長、充実した学生生活、趣味、旅行、自由、進学、自立(度数の多い順)にわかれた。1～9のカテゴリーのうち、代表的と思われる内容を専攻別、学年別に示すと表20のとおりである。内容として、幅広い、多様な夢が描かれるのではないかと予想したが、短大生の描く夢は、現実的であり、実現可能な夢がほとんどを占める結果となっている。

度数の高い順に、各カテゴリーの内容について考察すると、「就職」に関しての夢が43%を占め、デザイナー、栄養士、教員、保姆、スチューワデスなど、自己の希望する職業を明記している場合もあるが、学年、専攻を問わず、「自分の希望する職業につきたい」、「自分の学んだことが役立つ職業につきたい」という記述が多く、とくに教育系の短大生は、「子供を理解し個性や可能性をのばせる教師になりたい」、「教師になり子供の成長・発達にかかわり情熱を傾けたい」など、教育職についてから自分がどのようにしたいかを明確に記述している点特徴的である。

「結婚」に関しての夢は10%を占め、専攻、学年の別なく、「幸せな結婚をしたい」という記述が多く、「結婚し愛にあふれた家庭をつくり、子供を立派な大人に育てたい」、「結婚して子供が生まれたらよりよい人間になるよう育てたい」など、結婚後生まれてくる子供のことで描いている夢がみられた。

「自己の成長」に関しての夢は11%を占め、「すばらしい女性になるため自分を高めることをいろいろやりたい」、「人間として内面・外面的に自分自身を高めていく」など、自分を今以上に成長、向上させたいと願っている点が強くみられた。

「充実した学生生活」に関しての夢は9%を占め、「2年の間に多くの教養を身につけ、有意義で満足できる生活をしたい」、「サークル活動などに打ち込み楽しく充実した2年間を過ごす」など、現実を着実に生きることを

目標にしており、特に1年にこの夢が多くみられた。

次いで、趣味、旅行と続くが、「自由」について、「人生を勝手気ままに過ごしたい」、「自由に楽しくすごしたい」など、どの専攻にもこのことのみを記述している学生がみられた。最後の「夢なし」について、白紙または特に夢はないという学生が、多いところで20%あり、その理由として、「夢があってもかなう社会ではない」、「小さい頃は可能性や夢を持っていたが、自分を認識しだすにつれて現実的に先が見えて夢がない」などがあげられている。

各カテゴリーの専攻別、学年別の度数、パーセントは表21のとおりであるが、主要な6のカテゴリーについて専攻別、学年別に図式的に示したのが図24である。(10%を1cmで図示)図24を全体的にみると、どの専攻も就職についての志向が圧倒的に高い。人文系では1年の時17%だったのが、2年には52%と3倍になり、教育系では2年になると70%の学生が就職についてをあげている。ここでも、教育系学生が入学の際に卒業後の進路を明確にして入学してきていることがはっきりあらわれている。しかし家政系では1年で42%あったものが、2年になると36%に低下しており、他専攻に比べて問題があるように思われる。

専攻別にみると、家政系においては志向する方向が比較的に均衡している。しかし夢がないという学生が1年で6%が2年になると20%にもなり、この原因がどこにあるのか分析の必要がある。人文系では1年が他の専攻学年に比べて、一番均衡している。1年時の均衡が2年になるとくずれ差が一番大きく、夢も大きく変化している。教育系では、全体的なところで述べたように、就職志向が強く、夢のない学生はほとんどなくなり、1、2年共極端な志向となっている。



女子学生の意識についての調査

表20 問24 学年別・専攻別夢の分析結果度数（％）

		家政系 1 年	家政系 2 年	人文系 1 年	人文系 2 年	教育系 1 年	教育系 2 年	短大1年	短大2年	短大全体
1	就 職	97(42%)	74(36%)	27(17%)	85(48%)	70(52%)	93(68%)	194(37%)	252(48%)	446(43%)
2	結 婚	33(14%)	26(13%)	13( 8%)	12( 7%)	8( 6%)	12( 9%)	54(10%)	50(10%)	104(10%)
3	自己の成長	23(10%)	14( 7%)	36(23%)	23(13%)	10( 7%)	8( 6%)	69(13%)	45( 9%)	114(11%)
4	充実した学 生生活	24(10%)	11( 5%)	28(18%)	18(10%)	6( 4%)	11( 8%)	58(11%)	40( 8%)	98( 9%)
5	趣 味	15( 6%)	13( 7%)	14( 9%)	13( 7%)	16(12%)	2( 1%)	45( 8%)	28( 5%)	73( 7%)
6	旅 行	10( 4%)	9( 4%)	12( 7%)	11( 6%)	4( 3%)	4( 3%)	26( 5%)	24( 4%)	50( 5%)
7	自 由	4( 2%)	8( 4%)	6( 4%)	5( 3%)	6( 4%)	4( 3%)	16( 3%)	17( 3%)	33( 3%)
8	進 学	10( 4%)	4( 2%)	6( 4%)	5( 3%)	3( 2%)	0( 0%)	19( 4%)	9( 2%)	28( 3%)
9	自 立	5( 2%)	5( 2%)	3( 1%)	0( 0%)	4( 3%)	1( 1%)	12( 2%)	6( 1%)	18( 1%)
10	夢 な し	13( 6%)	41(20%)	15( 9%)	6( 3%)	9( 7%)	2( 1%)	37( 7%)	49(10%)	86( 8%)
	合 計	234	205	160	178	136	137	530	520	1,050

表21 問24 学年別専攻別夢の自由記述

	家政系 1 年	家政系 2 年	人文系 1 年	人文系 2 年	教育系 1 年	教育系 2 年
就 職	<ul style="list-style-type: none"> <li>●大学で学んだ勉強を生かして職業につく</li> <li>●男性の中に入ってもひけをとらないてきばきした仕事をする</li> <li>●地域社会のため役立つ仕事をする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自分の希望する職業につく</li> <li>●大学で学んだことが社会に役立つ職業につく</li> <li>●大学で学んだ専門が生かせる職業につく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●大学で学んだことが生かせるような職業につく</li> <li>●自分にあった職業をみつけれ自分の才能をフルに生かせる仕事につきたい</li> <li>●自分のやりたい道で超一流になりたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自分の希望する職業につき能力を生かし社会的に認められるようになりたい</li> <li>●自分にとって本当にやりがいのある仕事をつつける</li> <li>●自分の学んできた知識の発揮できる所に就職したい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●大学で教育の基礎をしっかり見につけ実践の場に出る</li> <li>●子供に広く親しまれ習えて良かったと思われる教師になりたい</li> <li>●人の役だつ仕事につき一生続けたい</li> <li>●僻地の学校で教育したい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●今、学んでいることを生かし社会に役だつ仕事をしたい</li> <li>●子供を理解し個性や可能性をのばせる教師になりたい</li> <li>●教師になり子供の成長・発達にかかわり情熱を傾けたい</li> <li>●教員採用試験に合格し教職につきたい</li> </ul>
結 婚	<ul style="list-style-type: none"> <li>●女性の自立は職場だけではないので主婦として自立した女性となる</li> <li>●幸せな結婚をしいい家庭を築きたい</li> <li>●結婚し平凡な生活でよい</li> <li>●暖かい家庭をつくり手づくりのものを食べさせたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●結婚し家庭に入り夫や子供に慕われる主婦になりたい</li> <li>●結婚し愛にあふれた家庭をつくり子供を立派な大人に育てたい</li> <li>●結婚し理想とする家庭を築き今の学習を役立てたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●幸せな家庭を築くこと</li> <li>●理想の男性をみつけて結婚すること</li> <li>●良い人をつつけて幸せな結婚生活を送る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●幸せな結婚をしのんびり平穩に過ごす</li> <li>●結婚をし家族の個性を尊重できる家庭にする</li> <li>●自分の経験を生かし子供の夢をかなえられる親になる</li> <li>●教養豊かな女性となり良妻賢母をめざす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●良い母親になること</li> <li>●あたたかい家庭を築くこと</li> <li>●めざす職業を続けながら良い家庭を築くこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●良い母親になること</li> <li>●結婚して子供が生まれたらよりよい人間になるよう育てたい</li> <li>●結婚生活の中に今まで習得したことを生かす</li> <li>●自分らしく生き平凡でいいから幸せな家庭を持つ</li> </ul>
自己の成長	<ul style="list-style-type: none"> <li>●家政系にきたがそれにとらわれず種々のものに挑戦</li> <li>●色々なことにチャレンジしその中で色々な人と出会い人間性を育てたい</li> <li>●将来の生きかたにプラスになる友をみつけ精神面で向上したい</li> <li>●目標に向かってより良くすごす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●良識ある人と出会い自分を高めたい</li> <li>●すばらしい女性になるため自分を高めることを色々やりたい</li> <li>●物欲に流されず自分をつかみ人間的に成長したい</li> <li>●人のためになれる人間になれるよう努力する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自分の能力を見出し何か将来に役立つよう準備する</li> <li>●自分に納得できる将来の見通しを立てる</li> <li>●人間として内面・外面的に自分自身を高めていく</li> <li>●ずっと学べるものをもつ</li> <li>●心から一生懸命になれるものをみつける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●着実に向上していけるような生きかたをする</li> <li>●より高く優れたものに目を向け吸収していきたい</li> <li>●人間を大事にする人間的にすばらしい人になりたい</li> <li>●社会的視野を広げたい</li> <li>●自分にしかできないことを身につけたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●人間的に成長し幅のある人間になること</li> <li>●大学生活の中で自分をもっと大きなものとし知識のある優しきをもった人になる</li> <li>●色々なことに挑戦し自分の可能性を伸ばしたい</li> <li>●学業に専念し将来は日本をせおって立ちたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●色々な人を知り自分も新しい分野にチャレンジして可能性をみつけ豊かな人間になる</li> <li>●人間として人の心の痛みのわかる心の豊かな人間になりたい</li> <li>●人間的に大きくなりしたい</li> </ul>
充実した学生生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>●今しかできない数多くの事を経験し人間関係を深め人間として成長したい</li> <li>●2年の間に多くの教養を身につけて有意義で満足できる生活をしたい</li> <li>●毎日を大切に勉強も人間関係も深めたい</li> <li>●短い学生生活を十分エンジョイしたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学生生活を有意義にすごし今しかやれないことすべてに挑戦する</li> <li>●学生時代に良き思い出をつくりやりがいのある進路をみつける</li> <li>●残りの学生生活を自分の満足できるものにする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●サークル活動などにうちこみ楽しく充実した2年間をすごす</li> <li>●自分をよく知り毎日の生活を充実したものとする</li> <li>●自分の専攻をやりとげ自分のものにする</li> <li>●大学生活を無駄にせず社会に出て通用する人間になる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●卒業までの日々をまわりにながされず楽しく充実したものにする</li> <li>●残された日々をエンジョイし自分の目標に向って励む</li> <li>●学習・サークル活動など学生でなければできないことを十分やる</li> <li>●クラブ活動を充実させ勉学と両立させる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学生生活を勉学・レジャーの両面でうちこみ教員になったとき経験豊かなよりがいのある教員となる</li> <li>●時間の上手な使い方を身につける</li> <li>●学習・クラブ共にがんばり学生生活をエンジョイする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●残りわずかな学生生活を悔いの残らないよう充実させてすごす</li> <li>●クラブ活動を一生懸命やるクラブ活動の公演が成功するよう努力する</li> </ul>

女子学生の意識についての調査

	家政系 1 年	家政系 2 年	人文系 1 年	人文系 2 年	教育系 1 年	教育系 2 年
趣味	<ul style="list-style-type: none"> <li>●免許をとってドライブをしたい</li> <li>●芝居の好きな人と舞台をつくりたい</li> <li>●バンドを組んで人の心を打つような音楽を演奏したい</li> <li>●小説を書いて本に出したい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●テニスの指導者になりテニスを通じて人間的に成長したい</li> <li>●趣味を生かしながら仕事したい</li> <li>●手芸、絵、料理など自分の趣味を生かしたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●合唱団で歌い人に感動してもらいたい</li> <li>●読書に時間を費したい</li> <li>●英会話力を身につけたい</li> <li>●自分の考えを作品として書きたい</li> <li>●ムツゴロウ王国で働きたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●英会話力を身につけたい</li> <li>●車の免許をとりたい</li> <li>●劇団に入り劇をやりたい</li> <li>●自分で書いた詩や小説を本にしたい</li> <li>●趣味を生かした生活がしたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●作家になりたい</li> <li>●マンガ家、アニメーターになりたい</li> <li>●人形劇団に入り人形使いになりたい</li> <li>●コンサートなどで人の感動するものを作りたい</li> <li>●パイプオルガンを習いたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●考古学の研究がしたい</li> <li>●北海道の自然の中で生きたい</li> </ul>
旅行	<ul style="list-style-type: none"> <li>●国内を見て歩きたい</li> <li>●海外旅行に行きたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●北海道、九州に行きたい</li> <li>●海外旅行に行きたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●色々な所に行ってみよう</li> <li>●広く旅をし色々な民族に出会いたい</li> <li>●海外旅行に行きたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●海外で生活したい</li> <li>●海外旅行に行きたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●海外旅行に行きたい</li> <li>●海外に留学し異国の人と接触したい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●海外旅行に行きたい</li> <li>●海外のホームステイに行きたい</li> </ul>
自由	<ul style="list-style-type: none"> <li>●色々なことに縛られず自由にマイペースでやりたい</li> <li>●自由に生活したい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自分の思うとおり自由に生きてゆきたい</li> <li>●自分の好きなことをして毎日楽しく過ごしたい</li> <li>●人生を勝手きままに過ごしたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●毎日楽しく自由に過ごしたい</li> <li>●人生を楽しく生きたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●毎日楽しく過ごしたい</li> <li>●好きな時に好きなことをしたい</li> <li>●自由に楽しく過ごしたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自由に自分の好きなことをやりたい</li> <li>●一人暮らしをして自由気ままな生活がしたい</li> <li>●束縛されず自分のやりたいことをしたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●結婚するまで自由に生きたい</li> <li>●自由に楽しく過ごしたい</li> </ul>
進学	<ul style="list-style-type: none"> <li>●4年制大学に進学したい</li> <li>●専門学校に進学したい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●4年制大学に進学したい</li> <li>●専門学校に進学したい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●4年制大学に進学したい</li> <li>●専門学校に進学したい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●4年制大学に進学したい</li> <li>●専門学校に進学したい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●4年制の大学に進学したい</li> </ul>	
自立	<ul style="list-style-type: none"> <li>●社会に出て知識を得て自立できる女性になりたい</li> <li>●自立して常に新しい何かを見出せる人になりたい</li> <li>●今、学んでいることを生かし自立する女になりたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●早く社会に出て一人前になりたい</li> <li>●自立し自分のことは自分でできるようにになりたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●経済的、精神的に親から独立したい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●経済的、精神的に自立ししっかりした人間になる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●心身共に独立し自分で納得のいく生活をしたい</li> <li>●自分なりの生き方ができる女性になりたい</li> </ul>	
夢なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>●特にない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●小さい頃の夢もいくつか実現し大きなことをしたいと思っても平凡な道を歩くしかないのが夢はない</li> <li>●夢があってもかなう社会ではない</li> <li>●夢はあっても現実には甘くない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●目的もなく短大に入り不安定、なんとか自分の存在を認識し早く生きる道を見つけた</li> <li>●今まで夢みてきたことがこの大学では資格がとれず今は夢がない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●目先のことに追われ将来をただ漠然と考えている</li> <li>●小さい頃は可能性や夢を持っていたが自分を認識しだすにつれて現実的に先が見えて夢がない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●夢は特にない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●夢は特にない</li> </ul>

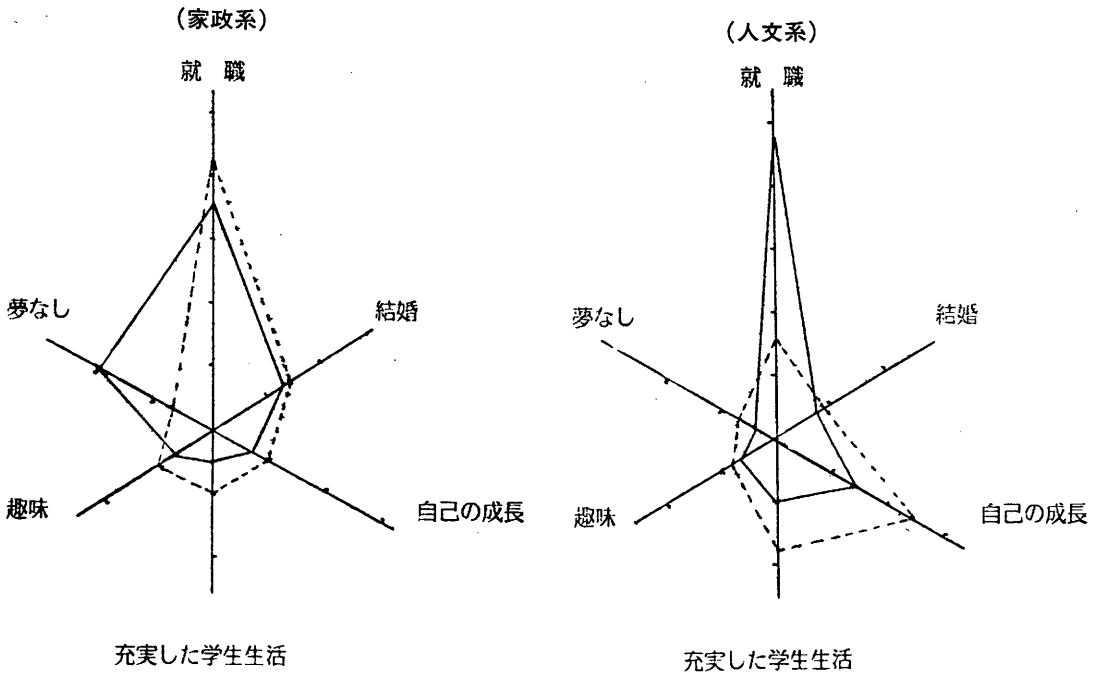
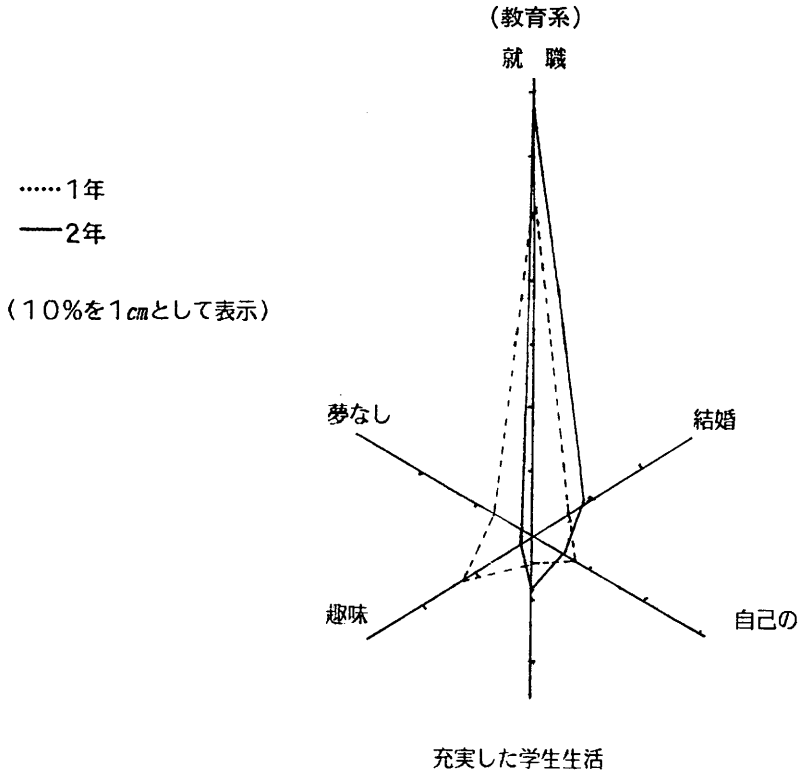


図24 問24 学年別，専攻別夢の6カテゴリー別度数（％）

## おわりに

教育環境アセスメントに関する研究の手がかりをうるための第一段階として、女子学生の意識調査を行ったが、大学生活の中での充実感、日常生活での満足感、自己実現の度合などの実態についての把握をとおして、今後検討すべき課題がいくつか示唆されたように思われる。教育環境の整備に関しては、そのほか多数の要因について

研究する必要があるが、それらの要因について、今後、多面的で実証的な継続研究を行うことによって、青少年にとってののぞましい環境は何かを探りたいと考えている。

研究資料を収集いただいた各私立短期大学の関係者に対し、深甚なる謝意を表するとともに、今後のご示唆をいただきたいと思っている。